

# 青少年育成センターだより

第一七九号 三月一五日 発行

いちごう て  
一隅を照らす

石川県珠洲市立飯田小五年 藤野結大

心で世界を見る

アファニスタンの人々の願いは、ただ二つ。一日三回食事ができること。家族と一緒に暮らすこと。僕にとって当たり前の日常が、現地の人々の願いなのだ。正直、僕には食べるものどころか飲み水もない生活なんて考えられない。この本を読み、蛇口をひねればいつでも出てくる水が、アファニスタンの人々にとっては「命をつなぐ水」だと初めて知った。中村さんは医師でありながら、現地で井戸を掘り、全長25キロメートルにもおよぶ水路を作った。干ばつ、飢餓、深刻な水不足、戦争。多くの問題に直面しながら、65万人もの命を救ったのだ。中村さんは、どんな気持ちで異国の人々に尽くしたのだろうか。

この本の中で、強く残った言葉がある。「人は見ようとするものしか見えない」だ。中村さんは、治療中、病気に苦しむ人々の心に懸命に寄り添っていた。診療所を作る際も自分たちのやり方や技術を一方的に持ち込むのではなく、現地の人たちが脈々と守ってきた文化を大切にしたい。その土地の風土と自分たちの力で生活したいという人々の思いを尊重し続けた。中村さんは、苦しみの中にいる人々の「心」を常に見ようとしていたのだ。

僕は中村さんの姿から、一つの言葉を思い出した。学校の校歌の一節にある「敬と愛」である。この言葉の意味をちゃんと知りたくて、辞書で調べてみた。「敬愛」とは、相手に対して、尊敬と親しみの気持ちを持つこと。中村さんはアファニスタンの人々に敬愛の心を持って、目の前の困難に立ち向かってきたのだと思う。

僕が住む珠洲は、五月に地震があり、町全体が被災した。僕の家は七十年以上前から焼酎を作る店をしている。店の壁にはひびが入り、多くの酒びんが割れた。焼酎を作る一番大事な機械が壊れ、家族全員が絶望的な気持ちの中、片づけに追われた。そんなとき、止まない地震を知って、励ましの電話をかけてくれた人がいた。残った商品を買ってくれた人。食べ物をお届けしてくれた人。不安な気持ちを支えてくれた身近な人たちの言動に、僕は中村さんと同じような「心」を感じた。

ニュースや新聞では、毎日のように多くの災害や紛争について報道されている。僕はこれまで、世界で起きていることの被害を数字でしか見てこなかった。しかし、敬愛の心を持って見れば、その数字の一つ一つに人々の暮らしや文化、歴史、思い出、笑顔が浮かんでくるような気がする。僕には、まだ中村さん

のように大きなことを成し遂げる力はない。でも、「見ようと思っただけで見ることはできる。この空の向こうに、今日も残酷な現実と向き合う人がいる。決して目を背けることなく、事実を知り、そこにいる人の心を想像すること。苦しみや悲しみの中にいる人々を敬い、自分にできることを考え続けること。それが、今の僕にできる第一歩だと思う。そして、どんなときも敬愛の心を持って、世界を見ようとする自分であり続けたい。

松島恵利子・著「大地をうるおし平和に尽くした医師 中村 哲物語」（汐文社）

第六九回「青少年読書感想文全国コンクール」で、小学校高学年の部において「内閣総理大臣賞」を授賞された藤野結大さんの作品です。

珠州市は、平成二三年五月にも震度6の地震に見舞われました。（今年一月一日の大きな地震の前にも、震度6の大地震に見舞われているのです）そのときに、多くの人から支援を受けるという経験をしたことから、中村哲さんの「苦しみの中にいる人々への眼差し」を読み、感動したことを文章にしました。被災という大変な経験をしたからこそ、中村先生のアフガニスタンの人々への思い（心）が伝わり、素直な気持ちで書かれた素晴らしい感想文だと思います。

中村哲さんについては、ご存じの方も多いでしょう。

中村先生は、内戦や干ばつで苦しんでいる人が多くいるアフガニスタンに、医者として赴任し、医療支援に取り組むとともに、水の確保のために用水路を建設することで砂漠化した大地に緑をよみがえらせるという大工事もしました。アフガニスタンの人々たちのために、自分のことを顧みずに活動されたのです。とても残念なことに二〇一九年に亡くなりました。

その中村先生が座右の銘としていた言葉が「一隅を照らす」と言う言葉だったそうです。これは、天台宗の開祖、最澄の言葉で「一人ひとりが自分のいる場所で、自ら光となり周りを照らしていくところ、私たちの本来の役目であり、それが積み重なることで世の中が作られる」と言う意味だそうです。中村先生のアフガニスタンでの活動は、まさに「一隅を照らす」ものだったのです。

中村先生について書かれた著書はたくさんありますので、春休みには、子どもに読ませてみませんか。「一隅を照らす」精神に触れさせることは、子どもの成長につながるはずです。



文責 青少年育成センター指導員 藤村

連絡先 防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター 〇八三五（二三）三〇一二